

30度越えの真夏日があったり、冬を感じさせるような急な冷え込みがあったり、寒暖の差が激しい“秋”になりました。紅葉の秋を楽しむ間もなく急ぎ足で冬が来るような気がします。

10月31日に衆議院議員総選挙が実施され、新しいこの国の進路が国民の意思によって選択されましたが、本村のような過疎地域にとっては今後どのように生き残っていくべきか重大な転換期であるといえます。私が今回の国政選挙を通じて常に訴えたことは、地方の声をしっかりと聞いてくれる候補者や政党を選んで下さいということでした。

なぜなら、残念なことに国や県の補助や支援無しでは村民の皆さんが求める安心・安全で将来に夢を持てる村づくりができないからです。

私は今年度から全国山村振興連盟の岐阜県支部長に就任させていただき、先日、令和4年度の山村振興の国への予算要望の審議に参加してまいりました。

人口減少、少子高齢化、災害の激甚化など、山村地域の抱える課題は全国一緒です。国や県が用意している山村振興や過疎対策の制度事業をいかに有効に活用して村づくりにいかしていくかが、地域に一番身近な行政組織である市町村の役割です。

そうした観点から村では、今年度と次年度で令和5年度から8年間の村の設計図ともいえる、第6次総合計画を樹立する作業に入っています。

総合計画というのは、村の近未来の最高計画という位置づけであり、その下で過疎計画や福祉計画など各分野の計画との整合性を諮り、PDCAサイクル(計画)(実行)(評価)(対策、改善)を実施し、見直しをしながら、毎年の予算執行や事業を計画性と持続性を持って実施するための大変重要な計画になります。今月は満足度調査や「村長と語る会」を実施し各分野の今後の課題や夢などをお聞きし、できる限り総合計画に盛り込み、人口減少に歯止めをかけつつも、身の丈にあった東白川村のあるべき姿を描いていくようにしたいと考えています。アンケート調査や「村長と語る会」、役場担当課が行なうヒアリング調査などに御協力いただくようお願い申し上げます。

コロナ感染症は、全国的にも感染者数が低い数字に落ち着いてはいますが、気温の低下とともに第6波が起きると懸念されています。ワクチンを打ったから大丈夫と油断せず、基本的感染防止策であるマスク着用、手洗い、三密の回避、体調管理と人混みへの外出や大人数での会食などをできる限り回避していただき、この感染症から御自身と家族、職場、地域を守る行動を実践していただくよう御理解と御協力をお願いします。

令和3年11月1日

東白川村長 今井俊郎